

A circular frame containing a photograph of a lush green forest with tall trees and dense foliage. The frame is set against a background of light green and white curved shapes.

企業 × 森のプログラム

～ 人的資本経営への活用 ～



p 1	目次
p 2	はじめに
p 3	森のプログラムとは
p 4	森のプログラムの活用意義
p 5-6	森のプログラムの効果
p 7-12	企業における森のプログラム活用事例

1

癒しと協働作業のプログラムで
同期社員との絆の醸成と心の健康づくり

p 7-8

TDK ラムダ株式会社

2

森でのウォーキングイベントで
社員の健康づくりと地域との関係づくり
企業プロモーションも

p 9-10

株式会社でん六

3

林業や国産材利用意義について学ぶプログラムで
自社事業や企業理念の理解向上、業務へのモチ
ベーションも向上

p 11

株式会社オカムラ

4

癒やしと交流のプログラムで
チームビルディングと心と体の健康づくり
社会貢献への意識向上

p 12

アルファテックス株式会社

p 13	森林サービス産業推進地域
p 14	日本の森林、森林・林業とSDGsの関係
巻末資料	森のプログラム活用Q&A / お問い合わせ先

企業 × 森のプログラム

～ 人的資本経営への活用 ～



Introduction

はじめに

日本は、先進国でありながら、国土の7割が森林を占める世界有数の森林国です。この森林は、人をリラックスさせたり、ストレスを軽減させたり、人と人の心を近づけたり、発想の源になったりと様々な“力”をもっています。日本で生まれた「森林浴」の言葉は、海を渡り、海外でも「Shinrin-Yoku」や「Forest Bathing」の名で親しまれています。

林野庁が推進する「森林サービス産業」は、この豊かな森林を活用し、健康・観光・教育等の様々な分野の体験プログラム（森のプログラム）を提供することによって、人々の健康や心の豊かさへの貢献とあわせて、山村地域に新しい雇用の創出と所得の機会を生み出し、地域活性化に寄与することを目的としています。

山村地域が提供する森のプログラムは、企業における様々な課題や関心事項に対応するとともに、企業活動に持続可能性が求められ、自然資本に対する取組が重要視される中、企業の経営課題の解決、ブランディング、社会的評価の向上等に役立つものです。

この冊子は、企業における森のプログラムの活用意義や活用事例を紹介しています。より多くの企業の皆様に、森のプログラムを活用いただけることを期待しています。

林野庁 森林整備部 森林利用課 山村振興・緑化推進室

What is the Forest Program?

森のプログラムとは

「森のプログラム」とは、山村地域において、豊かな森林空間を活用して提供される体験プログラムです。企業の人的資本経営に役立つ様々なプログラムが提供されています。

癒しや運動のプログラム例



長野県信濃町地域

● 森林セラピー

森を楽しみながら心と体の健康維持・増進や病気の予防を行うことを目指す、科学的な根拠に裏付けられた森林浴。

※「森林セラピー」は特定非営利法人森林セラピーソサエティの登録商標。



山形県上山市地域

● 日本型クアオルト健康ウォーキング

ドイツのクアオルト（療養地・健康保養地）で活用されている「気候性地形療法」（野山を活用する運動療法）の手法を用い、日本の風土等に合わせたウォーキングプログラム。

※「クアオルト」「気候性地形療法」は株式会社日本クアオルト研究所の登録商標。

協働作業・人材育成のプログラム例



山梨県小菅村地域

● 森林整備体験

植林、下刈、間伐、歩道整備、獣害防護柵の設置等の森林の手入れを体験することで、森や林業に対する関心・理解を深めたり、森林機能の維持・向上に貢献するプログラム。



東京都檜原村地域

● 環境教育

森林の公益的機能、人間と自然とのかかわり、木材利用の意義等について理解を深め、環境問題や自社の環境保全の取組等に対する興味関心を高めるプログラム。

アクティビティや語らいのプログラム例



兵庫県宍粟市地域

● 森でのアクティビティ

リフレッシュに加えて、自然と会話がはずみ心のバリアを下げてコミュニケーションを活性化する森林の中でのマウンテンバイク、アスレチック、ゲームなどのアクティビティ。



群馬県長野原町地域

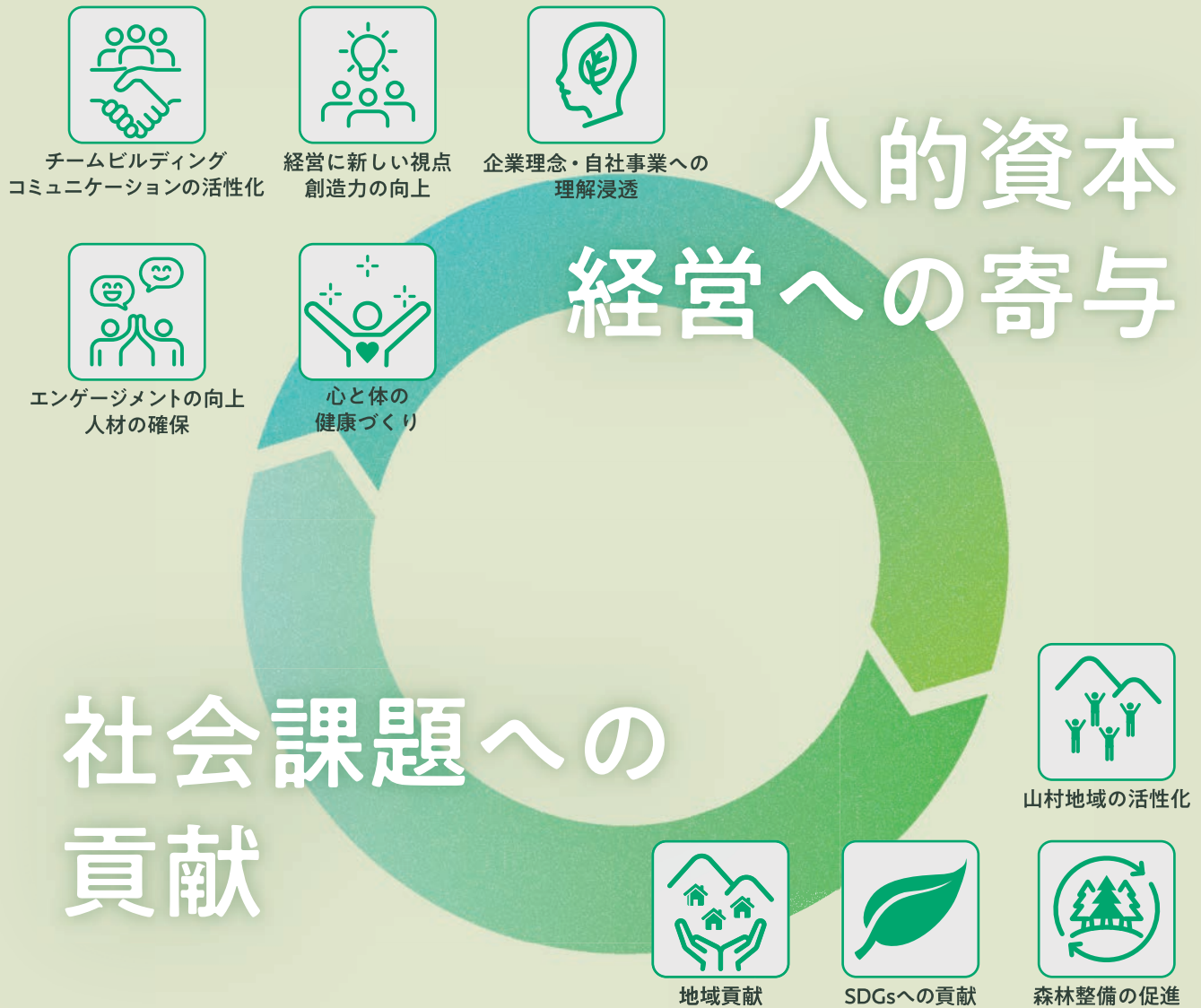
● 焚き火

精神的な安定や心の解放につながると言われる焚火を囲み、自身のふりかえりや仲間と語らうとことにより、内省や関係性の強化等を図るプログラム。

Significance of Utilize the Forest Program?

森のプログラムの活用意義

山村地域が提供する森のプログラムは、心と体の健康づくりやチームビルディング等、企業における人的資本経営に対応しています。あわせて、森のプログラムの活用は、企業として、山村地域の活性化、森林整備の促進など、社会課題に貢献することにもつながります。人的資本経営への寄与と社会課題への貢献が同時に叶うのが、森のプログラムです。



山村が元気に

8 働きがいも
経済成長も



11 住み続けられる
まちづくりを



12 つくる責任
つかう責任



森林が元気に

6 安全な水とトイレ
を世界中に



13 気候変動に
具体的な対策を



15 陸の豊かさも
守ろう



Effects of the Forest Program

森のプログラムの効果

現代の企業では、人材確保や組織活性化、イノベーションの創出や新規事業開発など、多岐にわたる課題を抱えています。とくに優秀な人材の獲得と離職防止が欠かせないにもかかわらず、外部環境として求人倍率の高止まりが続き、状況は一段と深刻化しています。こうした現状を打開するには、初任給の引き上げなどの短期的な対策に頼るだけでなく、全社員のウェルビーイングを戦略的に高める長期的視点が不可欠です。

森のプログラムを継続的に導入することで、非日常の自然環境下で培われる組織の結束や新しいアイデアの創出、自社理念や事業への理解が深まる効果が期待できます。さらに、これらの効果を定量・定性の両面で測定し、投資対効果として経営層が把握・評価できるようにすれば、企業の持続的成長を支える重要な施策として位置づけられるでしょう。詳しくは以下の解説をご覧ください。

特定非営利活動法人 Nature Service 共同代表理事 赤堀哲也

チームビルディング・コミュニケーションの活性化

森林の中での活動は、必然的に協働作業となること、自然と会話が生まれること、社内共通の話題となることなどから、役職や世代、所属部署を超えたコミュニケーションの活性化や信頼関係の構築が期待できる。

また、Wiessner の研究によると、焚火を囲んだ夜の会話は、想像力を喚起し、緊張を和らげる効果があった。火の光は人々の絆を深め、心を開放させ、抑制を解くこと、表情が火の揺らめきで和らぎ、自己と他者への意識が低下することで、より親密で開放的な対話が生まれやすくなり、心を開きやすくなると考えられる。

【引用元】

Embers of society: Firelight talk among the Ju/'hoansi Bushmen
Polly Wiessner, Proceedings of the National Academy of Sciences, 2014



経営に新しい視点、創造力の向上

森林の中に身を置き、非日常の体験を行うことで、会議室の中では出なかった新しい視点、アイデアを生み出すことが期待される。

スタンフォード大学の研究では、歩くことが創造的思考を向上させることが示され、特に屋外での歩行が最も効果的で、参加者の創造性テストスコアが 81% 向上、アイデア生成が約 60% 増加した。自然環境での散策は、注意力の回復や「やわらかな刺激」状態を通じて、より斬新で質の高いアイデアの創出を促進することが明らかになった。

【引用元】

Give Your Ideas Some Legs: The Positive Effect of Walking on
Creative Thinking Marilyn Oppezzo と Daniel L. Schwartz, Journal
of Experimental Psychology: Learning, Memory and Cognition, 2014



企業理念・自社事業への理解浸透

企業活動に持続可能性が求められ、自然資本に対する取組が重要視される中、カーボンニュートラルや生物多様性等に貢献するため、森林の健全性の維持・向上に寄与する取組を行う企業が増えている。

こうした企業では、森林整備体験や森林資源の循環利用等について学ぶ森のプログラムを通じて、社員の自社の企業理念や事業への理解を深めることができる。



エンゲージメントの向上・人材の確保

森のプログラムにより、心身の疲労回復につながるとともに、チームビルディング等を通じて社員のモチベーションが向上することなどから、自社への愛着を高める手段としても期待できる。採用時にも「社員を大切にせる企業」であることを示すPRポイントにすることが可能。

離職率の低減は、教育費や退職金といった離職コストの抑制、心の健康の改善により、急な休職・離職の予防につながる。



KPIの設定について

企業が森のプログラムを導入する際、離職率やモチベーションアンケート、アイデア提案数などを中長期的な視点で KPI に設定すると、効果を可視化できる。定期的な測定により投資対効果を経営層が評価し、PDCA サイクルを回すことで組織力や業績の向上につながられる。さらに、社員のウェルビーイングも定量・定性両面で把握できるため、施策の改善や経営判断に役立つ点が大きなメリットとなる。

(例) モチベーションアンケート

匿名で「今の仕事への意欲」「チームへの貢献意欲」「会社の未来への期待度」などを5～7段階評価のアンケートを用いて定期的の実施する。



写真：信濃町ノマドワークセンター

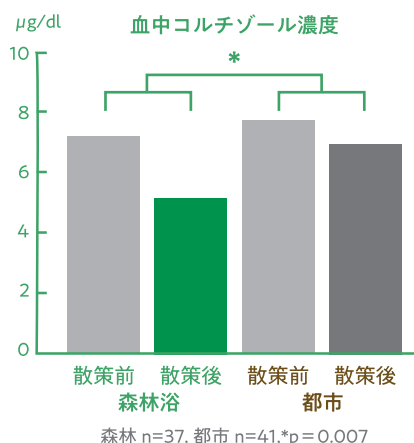
森のプログラムによって心のバリアを取り除くことで、社員のディスカッションがより深いものに。

心と体の健康づくり

森林環境で過ごすことで、①ストレス軽減、②自律神経の調整、③粘膜免疫機能の向上、④身体活動量の増加に生理学的な効果があると証明されている。例えば、40～70歳の健康な男性 84 名（うち、解析対象者 78 名）を対象にしたランダム化比較試験では、森林浴後にストレスホルモン（コルチゾール）が有意に減少し、ストレスマネジメント効果が高いことが確認された（グラフ）。

これらの効果を活用することで、従業員の健康維持、ストレス対策等につながり、企業の生産性向上や業務継続性の確保に貢献する。

国立病院機構東京医療センター 形成外科科長 再生医療研究室室長
産業保健室長 認定産業医 落合 博子





活用事例 01 癒やしと協働作業のプログラムで 同期社員の絆の醸成と心の健康づくり

TDKラムダ株式会社（製造業 本社所在地：東京都中央区）

【導入の背景】 社有林の有効活用を検討している中で、2007年に長野県信濃町と「森林の里親協定」を締結した。信濃町が森林セラピーに取り組んでいることを知り、翌年春から、それまで本社で開催していた新入社員研修を信濃町での開催に切り替え、森林セラピー等のプログラムを取り入れた。

【実施目的・内容】 同期社員の絆の醸成や心の健康づくりを目的に、業務に関する座学に加えて、森林セラピー、森林整備作業、間伐材を使ったオブジェづくり等の森林内での協働作業など、多様なプログラムを導入。座学だけでなく森のプログラムを一緒に行うことで、同期社員同士の関係性が深まることを実感し、2年次研修、3年次研修、6年次研修、エルダー研修でも森のプログラムを実施している。

研修における森のプログラム例

（2024年2年次研修）

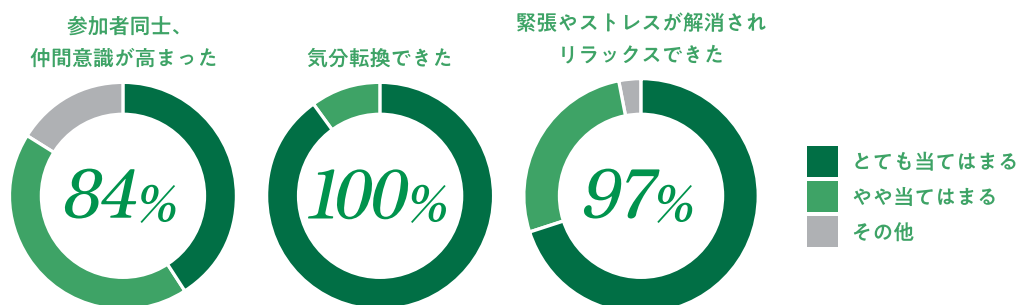
- ・森林セラピー
- ・焚き火を囲んで振り返り（1年間の自分自身の振り返り）
- ・森林整備作業（歩道の整備、枯死木の整理）

※2泊3日の研修で、1日目及び2日目はホテルの会議室で業務に関する座学を実施し、最終日に森のプログラムを実施。



森のプログラム効果 ～森のプログラム参加者へのアンケート結果～

参加者の8割が参加者同士の仲間意識が高まったと回答した。また、ほとんどの参加者が気分転換やリラックスが出来たと回答している。



注) 2024年度にTDKラムダ株式会社が実施した新入社員研修等で森のプログラムに参加した社員を対象としたアンケート調査結果 (N=37)



社員の声

新入社員のころは緊張してストレスも感じていましたが、自然の中でリラックスできたり、同期と一緒に森のプログラムを体験したことで、お互いに緊張せず打ち解けあうことができたように感じます。入社後半年たったタイミングでの研修は、森のプログラムに参加している中でリラックスすることができ、同期同士でお互いの仕事の大変さを共有し、また頑張ろうと励ましあういい機会になりました。



企業担当者の声

活動の場としている社有林は、「自分たちの森」という意識が根付いているようです。活動を通して、相談できる雰囲気、支え合える関係が築かれ、結果的に早期退職者の割合が減少しました。また、採用活動時に、森のプログラムを話すことで、関心を持たれることも増えました。
(人事部 人財グループ)

	都市で研修 (05-07年)	山村で研修 (08-21年)
新卒採用者	43人	194人
3年以内退職者 (離職率)	5人 12%	7人 4%



受け入れ
山村地域の声

新入社員研修では、ものづくり体験プログラムが重要な役割を果たしています。「ものづくりの会社なので同期メンバーみんなで何かを作る体験をしてもらいたい」という企業からの要望に応え、オブジェづくりなどを通じてチームワークとコミュニケーションの重要性を学ぶ機会を提供しています。また、森林セラピーを提供する際には、同じ森林メディカルトレーナーが継続して担当することによって、社員の方が相談などをしやすい関係を築いています。(しなの町 Woods-Life Community)





活用事例

02

森でのウォーキングイベントで 社員の健康づくりと地域との関係づくり、企業プロモーションも

株式会社でん六（菓子製造業 本社所在地：山形県山形市）

【導入の背景】 社員向けのウォーキングイベントを開催していたところ、同社の工場が所在し、クアオルトのまちづくりを推進する山形県上山市からの働きかけにより、2012 年から同市内でのクアオルト健康ウォーキングを自社イベントに導入。上山市と「クアオルトかみのやま」健康経営相互応援協定」も締結している。

【実施目的・内容】 社員が参加しやすい健康増進プログラムとして、上山市やクアオルトのガイドを行う「蔵王テラポイト協会」の協力を得て、クアオルト健康ウォーキングのイベントを年2回開催している。社員やその家族だけでなく、地域の方も対象とすることで、地域との関係づくりや企業プロモーションの機会にもなっている。

イベントにおける森のプログラム例

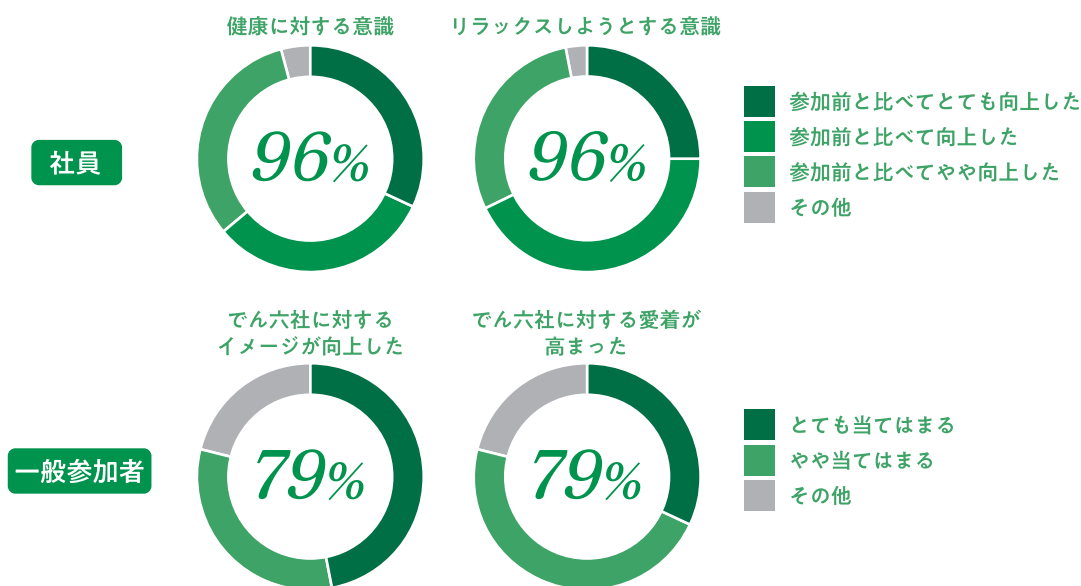
（2024年10月開催）

- ・心拍数等計測
- ・開会式、ガイドによる説明
- ・西山コースでのクアオルト健康ウォーキング
- ・でん六社商品抽選会
- ・クアオルト弁当等配布



森のプログラム効果 ～森のプログラム参加者へのアンケート結果～

参加した社員のほとんどが、健康やリラックスしようとする意識が向上したと回答しており、「無理なく運動不足の解消ができる」「森の中でリフレッシュできる」といった理由が多かった。また、一般参加者の約 8 割がでん六社へのイメージや愛着が高まったと回答している。



注) 2024 年 10 月に株式会社でん六が開催したクアオルト健康ウォーキングのイベントに参加した者を対象としたアンケート調査結果 (社員: N=29、一般参加者: N=19)



一般参加者の声

- ・気分転換ができて最高でした。・企業主催のプログラムで、頑張っているんだなと感じました。
- ・地元企業を応援したい。



企業担当者の声

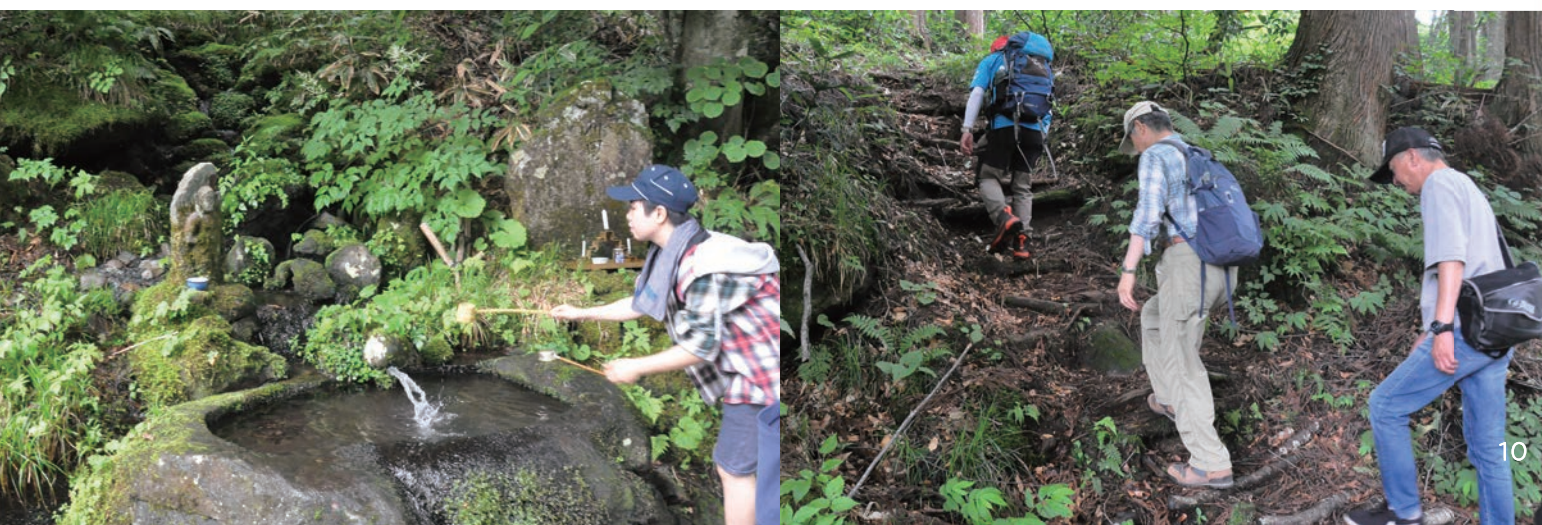
社員が自分の体に向き合うようになり、健康経営に対する理解も向上したと感じています。また、社内のスタッフ部門と製造職の方がざっくばらんに話ができるようになりました。地域の方に参加していただくことで、企業のイメージアップにもつながっていると考えます。このイベントを開催していることによって、健康経営優良法人の認定申請時に、認定基準「コミュニケーションの促進に向けた取り組み」「運動の機会に向けた取り組み」にチェックをいれることができます。



受け入れ山村地域の声

13年間継続いただき参加者数も 1,000 人を超える本市に定着したイベントです。森林空間を活用したクアオルト健康ウォーキングは、市民の健康増進と交流人口拡大の土台となる、美しい風景づくり (環境保全) につながっています。(山形県上山市)

写真提供: 株式会社でん六





活用事例

03

林業や国産材利用意義について学ぶプログラムで 自社事業や企業理念の理解向上、業務へのモチベーションも向上

株式会社オカムラ（製造・販売業、物流業 本社：神奈川県横浜市）

【導入の背景】 生物多様性と自然共生に向けた活動を 2010 年からスタートし、2011 年に ACORN 活動として発足。生物多様性の意義を学ぶ研修として長野県黒姫にあるアフンの森での研修を実施している。

【実施目的・内容】 生物多様性の保全課題として人工林の保全の為に国産木材利用を推進。2023 年から東京都檜原村の林業事業体の協力を得て、国産材家具の提案販売業務に携わるデザイナーや営業職を対象として、生物多様性保全と人工林の関係と、人工林保全をサステナブルにしていくための課題を学ぶ研修を実施している。

研修における森のプログラム例

2024 年 ACORN 社員研修（国産材活用意義）

【前日】

- ・事前オンライン研修
（自社及び林業事業体の取組について）

【当日】

- ・人工林の視察（林業の現状・自社製品との結びつき等）
- ・スツール制作ワークショップ
- ・木工加工の現場の視察
- ・檜原森のおもちゃ美術館での木工製品の視察

森のプログラム効果 ～森のプログラム参加者へのアンケート結果～

参加者全員が、森林や環境保全や自社の取組に対する理解が深まったと回答。また、約 9 割が、業務に対するモチベーションが向上したと回答している。

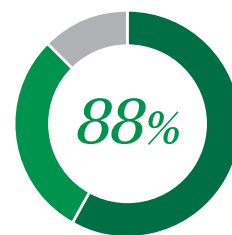
自社の取り組みに対する
理解が深まりましたか？

- 当てはまる
- やや当てはまる
- その他



自身の業務に対する
モチベーションが高まりましたか？

- 当てはまる
- やや当てはまる
- その他



注）2024 年 9 月に株式会社オカムラが実施した社員研修で森のプログラムに参加した社員を対象としたアンケート調査結果（N=30）（データ提供：株式会社オカムラ）



社員の声

主伐材をきちんと使って森を育てていくことが大事だと気付かされました。／ 木の新製品開発を積極的に考えていきたい。／ 国産木材使用の必要性をアピールするのに実体験を話すことができました。／ 今後、木材の役割や木材を選択することによる自然への影響など、包括的に説明して提案ができると思っています。



企業担当者の声

導入にあたり、パートナーや場所を慎重に選択したことによって、業務に直結した内容のプログラムを実施することができました。国産材活用の意義や木材の魅力、自社ビジネスとの関わりに対する理解が深まり、国産材を用いた提案販売等の業務に活かすことができています。（環境マネジメント室）

写真提供：株式会社オカムラ



活用事例

04

癒やしと交流のプログラムでチームビルディングと心と体の健康づくり、社会貢献への意識向上

アルファテックス株式会社（IT業 本社：東京都品川区）

【導入の背景】業務上、社員間の交流の少なさや終日のデスクワークといった課題があり、社員の交流と健康増進を検討していたところ、豊かな自然を活用したセラピープログラム等を提供している小海町と出会い、社員研修として森のプログラムを導入している。

【実施目的・内容】仲間意識の醸成、心と体の健康づくり、人間力・社会力の研鑽を目的として、森林の中で五感を開くセラピーウォーク等のプログラムや、焚き火を囲んだ仲間との交流、町職員とのディスカッションを実施。近年は、音楽祭の開催やワインづくりなど、町の地域活性化に向けた取り組みに対して積極的に協力している。

研修における森のプログラム例

2024年中堅社員研修

【前日】

- ・森林セラピー
- ・焚き火セラピー

【当日】

- ・紅葉ウォーク
- ・ワーケーション

森のプログラム効果 ～森のプログラム参加者へのアンケート結果～

参加者全員が、気分転換できた、一緒にプログラムに参加した社員と話しやすくなった、訪問した地域に貢献したい気持ちが高まったと回答している。

気分転換できた



一緒に森のプログラムに参加した社内の人と話しやすくなった



森のプログラムで訪問した地域に貢献したいという気持ちが高まった



■ 当てはまる
■ やや当てはまる
■ その他

注）2024年10月にアルファテックス株式会社が中堅社員を対象に実施した社員研修で森のプログラムに参加した社員を対象としたアンケート調査結果（N=7）



社員の声

自然の中を歩きながら対話することでリラックスして交流を深めることができました。会議室で膝を突き合わせての会議ではできないような話がたくさん出て横のつながりが強固になったと感じています。/ リフレッシュでき、以前よりも時間に追われている感覚が無く冷静に取り組んでいます。/ 仲間意識の醸成、人間力の研鑽、コアバリューの理解など、気づきが沢山あり参加できて良かったと思いました。



企業担当者の声

セラピープログラムだけでなく、町のイベントに参加することで地域への関心を高めることができたり、ワーケーションを通して他部門の業務に対する関心を高めることもできました。従業員が初対面同士であっても、活発にコミュニケーションを取ったり、協力して研修会場の設営・片付けなどを行う場面なども見られます。（ソリューショングループ）

写真提供：アルファテックス株式会社

森林サービス産業推進地域

林野庁では、(公社)国土緑化推進機構とともに、地方自治体と民間企業・団体などが連携して、森のプログラムの提供等に取り組む地域を「森林サービス産業推進地域」として登録し、各推進地域の特徴やアクセス、提供プログラム、近隣の利用可能な施設、問合せ先等の情報をとりまとめて公表しています。推進地域や提供プログラムについて、最新の情報を林野庁ホームページに掲載しています。

林野庁 森林サービス産業推進地域 検索

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/sanson/kassei/sangyou/area.html>



岡山県西栗倉村地域



滋賀県栗東市地域



東京都奥多摩町地域

企業における森のプログラム活用事例

企業における森のプログラムの活用事例については、林野庁ホームページに、本冊子掲載事例以外にも多く掲載しています。多様な分野の企業での森のプログラムの活用について、導入の経緯や決め手、取組内容やその効果、参加社員や企業担当者の生の声などを紹介しており、新たに活用を検討されるにあたって参考にしていただける資料です。

林野庁 森のプログラム活用事例 検索

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/sanson/kassei/sangyou/riyouzirei.html>



森林の循環利用とSDGsの関係

森林は、地球温暖化防止や生物多様性の保全、災害防止、水源涵養等の機能を持ち、SDGsとも深い関係があります。また、森林がもつ癒やしやリフレッシュ等の効果は、私たちの well-being につながります。

森林がもつこうした価値は、企業活動に持続可能性が求められ、自然資本に対する取組が重要視される中、企業の経営課題の解決、ブランディング、社会的評価の向上等に役立つものとなっています。

※ SDGs とは、「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)」のことであり、社会が抱える問題を解決し、世界全体で 2030 年を目指して明るい未来を作るための 17 のゴールと 169 のターゲットで構成されている。

森林空間の利用



健康促進



森林環境
教育



雇用創出
人にやさしい



森林サービス
産業



地方創生

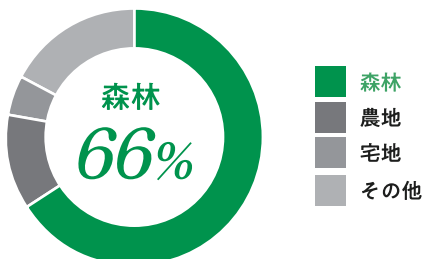


持続可能な
産業

日本の森林

我が国の森林面積は国土の3分の2に当たる約2,500万haであり、世界有数の森林国。
南北に長く標高差も大きいこと、暮らしや営みと森が密接に関わってきたことから、多様な森林が広がっています。
「森林浴」は、日本発祥で、現在では、海外にも広がっています。

国土面積の内訳



資料：国土交通省「令和6年版土地白書」（国土面積は令和2年の数値）
注1：計の不一致は、四捨五入による。
注2：林野庁「森林資源の現況」とは森林面積の調査手法及び時点が異なる。

世界との比較

順位	国	森林面積	森林率
1	フィンランド	22,409	73.7
2	スウェーデン	27,980	68.7
3	日本	24,935	68.4
4	韓国	6,287	64.5
5	スロベキア	1,238	61.5

資料：FAO「世界森林資源評価2020」を元に林野庁作成。
森林面積の単位は千ha、森林率は%。

—— 地域や標高、人の関わりに応じて多様な森林が存在 ——



注1：アイコンの下文言は、期待される主な効果等を記載したものであり、各ゴールの解説ではない。
注2：このほか、ゴール1は森林に依存する人々の極度の貧困の撲滅、ゴール10は森林を利用する権利の保証、ゴール16は持続可能な森林経営を実施するためのガバナンスの枠組みの結果も含め、さらにSDDsへの寄与が広がることが期待される。

Common Questions

森のプログラム活用 Q & A

Q

森のプログラムの情報はどこに掲載されていますか？

全国各地の「森林サービス産業推進地域」で、豊かな森林空間を活用し、特色ある様々な体験プログラム（森のプログラム）が提供されています。各推進地域の特徴やアクセス、提供プログラム、近隣の利用可能な施設、問合せ先等の情報は、林野庁ホームページで公表しています。

経営課題や研修等の目的、アクセスなどの要件にあった森のプログラム、推進地域探しに、ぜひご利用ください。

林野庁 森林サービス産業推進地域 検索

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/sanson/kassei/sangyou/area.html>



Q

どこから始めたらいいですか？

① 森のプログラムの利用の目的等を明確化する

どのような目的で森のプログラムを導入するのか、解決したい企業課題は何か、重視する要件は何かなどを明確化することで、②の問合せ・相談が行いやすくなります。

② 「森林サービス産業推進地域」の窓口に関問合せ・相談してみる

上記の林野庁ホームページに掲載している各推進地域の紹介シートには、お問合せ先を掲載しています。

①で整理した目的等を踏まえて紹介シートをチェックし、気になった地域に関問合せ・相談してみましょう。

③ 森のプログラムを体験してみる

推進地域を訪れて、ぜひ実際に森のプログラムを体験してみてください。

林野庁ホームページでは、各推進地域でのイベント、モニターツアー開催情報も掲載しています。

Q

健康経営優良法人の認定要件のどのような評価項目に関係しますか？

実施内容に応じて、制度・施策実行に関する評価項目である「コミュニケーションの促進に向けた取り組み」や「運動機会の増進に向けた取り組み」などに関係します。

【お問合先】

林野庁 森林利用課 山村振興・緑化推進室 山村振興企画班

TEL 03-3502-0048

E-mail forest_style@maff.go.jp



発行元：林野庁（令和6年度森林コンテンツ育成・普及対策事業）発行日：2025年3月

林野庁